今日のイラスト 529　「 イラストでたどる石州街道④ 中領八幡宮」　古谷眞之助

イラストでたどる 石州街道 04 中領八幡宮

文久3年（1863）の下関戦争後、海外勢力から山口を防衛するために、この鳥居から椹野川に至るまでの長い柳井田関門と二つの台場が設けられた。林勇蔵ら小郡宰判の有力者が資金と人夫を供出し、わずか10日間で完成させたと言われている。この関門によって他藩の出入りは厳しく制限され、不審者は切り捨てても良いとされたほどだった。

関門付近で実際に戦いが行われたのは「脱隊事件」の時のことである。明治3年（1870）、桂小五郎率いる鎮圧軍と旧奇兵隊士たちが血で血を洗う戦いを繰り広げ、鎮圧後、旧奇兵隊士108人が斬首された。かつての盟友同士が殺し合うという長州藩に暗い影を落とした何とも悲惨な戦いだった。

文・イラスト＝古谷眞之助

中領八幡宮の鳥居の目の前は国道 9 号線である。国道 9 号線は小郡から益田までとばかり信じていたが、念の為に調べてみると、京都から下関が正解で、小郡から下関までは「重複部分」と明記されていた。何とも恥ずかしい。ところで、9 号線に隣接してこの八幡宮はあるのだが、目の前の 9 号線は実は石州街道ではなくて、八幡宮から東南東方向に 100m ばかり進むと別の道路と交差する。その別の道こそが、第一回に登場させた津市道標から始まる石州街道なのである。萩往還と違って、石州街道沿いは今ではかなり開けているので、正確に辿ることが難しい場所もあり、ここも気を抜くとついつい間違えてしまいそうなところなので要注意。

さて、中領八幡宮だが、社殿によれば豊前の宇佐八幡宮の分霊を勧進し、1344 年に社殿が造営されたという。その頃は大内氏の時代であり、大内氏が豊前の守護を兼ねていたことも関係しているようだ。この寺には立派な釣鐘があり、市指定有形文化財となっている。中領八幡宮そのものに関する知識はこれくらいである。ここが一躍脚光を浴びるのは幕末になってからのこと。本文とも重複するが、文久 3 年（1863）5 月 10 日、長州藩は関門海峡において攘夷を決行し、外国船の砲撃を行った。しかし 6 月には米仏軍艦が下関に停泊中の長州軍艦を砲撃、長州海軍に壊滅的な打撃を与えた。このため、すでに藩庁の山口移転を進めていた藩政府は、山口の周辺各所に関門を設けた。山口周辺では文献によれば 11 の関門が確認できるが、この鳥居前から椹野川に到る関門が柳井田関門と呼ばれるもので、山口大学図書館に残る「柳井田砲台築造図」によれば、長さ約 470m の土塁が設けられ、中ほどで石州街道と交差し、ここでは道が鍵型になって関所の前を通過する構造になっていた。20 カ所の砲台も確認できる。長州藩では、小郡の勘場にあった御茶屋を「客館」とし、山口に用件のある者はここに留め置いて、山口からやってきた応接人が対応することになっていた。ここで実際の戦いがあったのは、本文にもある通り脱隊騒動事件の発生した明治 3 年のことで、しかも、同じ長州人同士が戦うという、何ともやり切れない悲惨な戦いだった。（2022.7.26 記）